

女性弁理士の活動紹介

～ 双子と犬の生活～double twins + 3 wans ～

2022年9月30日

弁理士クラブ 2022年企画委員長
玉腰 紀子



皆様ご存知の通り、我が家には、双子が2組と犬が3匹と、双子の父親が1人居ます。双子は現在中学2年生と小学校6年生です。上の双子(男女)が生まれた翌年の2009年に、妊娠中から独学した弁理士短答試験に合格し、その翌年2010年4月に、下の双子(男男)が生まれ、さらに同年の論文試験と口述試験に合格しました。双子は2歳差で、出産は2回とも予定帝王切開でした。2回目の帝王切開で入院したときは、直後に論文試験を控えていたため、商標の過去問、まいたけ餃子事件やダンディー甲田問題などを産婦人科の病室のベッドで解いていました。思えば重大イベントが集中した濃い時期でした。

実務経験がなかったのと、子どもが小さかったので、就職は難航しましたが、同期の紹介で無事に特許事務所に就職し、2011年、震災の年の5月に弁理士登録しました。登録番号17777(クワトロセブン)、今は公立大学のARO(Academic Research Organization)に非常勤勤務しつつ副業も行っています。

以上のような状況ですので、「双子育てながらどうやって働いているのか」と聞かれることがよくあります。小型犬も3匹おりますので、「犬も!?3匹もいるの!?’というコメントも多いです。ちなみに我が家には犬以外にも亀とヤドカリもいます。夏場にはクワガタとカエルとカブトムシがいることもあります。実家が近く、子育てには、主に実家、特に子ども好きだった実夫の安定的な手伝いもありましたが、細かな工夫の積み重ねや周囲の人たちのご協力も多くありました。

まず、上の双子の妊婦健診のときに、病院から区の保健所に「双子を産む」との情報提供がされまして、出産後は、保健師が様子を見に来てくださり、さらに、区の子ども家庭支援センターからも担当者が派遣されました。下の双子の出産後には、子ども家庭支援センターからの紹介で、ホームヘルパーが1年間12回無料で派遣されました。家には犬もいて散らかり放題でしたが、産後3か月に集中して来ていただき、普段できない掃除などをお願いしました。子ども家庭支援センターにはその後も(今でも)、困ったときは電話相談や面談等の対応をお願いしています。

また、下の双子を出産した翌年、待機児童問題が大きく話題になる中で、運よく、自宅近くに、NPO 法人運営の新しい保育園ができ、子ども家庭支援センターのサポートもあって1歳&3歳で4人同時に入園できました。4人分の保育料は、当時、支給開始された子ども手当で賄いました。子どもの自主性を大切にするおらかな保育園で、子どもたちの「自分で考える・決める」姿勢はここで育まれたと思います。夏祭りや餅つきなどの行事も多くあり、お揃いの浴衣、紙と綿で作った模擬かき氷を持ってはしゃぎまわる双子×2の姿は、何とも言えずかわいらしくて、「双子育児はプライスレス!」を感じる瞬間が沢山ありました。

さらに運よく、この頃からネットスーパーの普及が拡大して、仕様も便利になりました。犬用のペットシートから、おむつ、コメ、私のビールまですべて購入履歴から一度に買えて、しかも玄関まで持ってきてくれる素晴らしいサービスですので、今でも欠かせません。ちなみに、当時は1週間に1度くらいの頻度で注文していて、現在は5日に1回程度の頻度に増えています。1週間で卵は4～5パック、牛乳は多いと10本は消費します。

乳児期は、使うたびに消毒しなくてよいように、哺乳瓶を6～8本くらい使いました。日中は青本を読みながら母乳、夕方には疲弊するので夜はミルクで私はビールを1本だけ飲みました。使用済みの哺乳瓶は、双子の父親が帰宅後に洗浄、消毒する、という流れです。そ

の他、ベビーベッドと電動で揺れるバウンサー2台を、廃棄の手間を考慮して、レンタルしました。この電動で揺れるバウンサーは、子どもを寝かせて揺らしておくと寝てしまうので、優れものでした。また、4人にはそれぞれ生まれた時からいつも一緒に寝ているお気に入りのタオルがあり、これを持たせると安心の様子でしたので、当初は保育園にも持たせました。幼児～学童に育つ過程でさらにお気に入りぬいぐるみが増えてきています。ぬいぐるみたちは東京ディズニーリゾートや旅行で買ってきたもので、ふわふわ+楽しかった思い出付きのスペシャルアイテムです。タオルとぬいぐるみのセットは、最強の眠りのお供です。



離乳食が終わった頃から、朝食は、メニューを考えなくてよく、一品で肉・野菜・豆類のすべてを採れる具沢山味噌汁にしています。今でも変わらず、子どもたちは忙しくても寝坊してもこれだけは食べて出掛けます。味噌汁といっても、一般的な「味噌汁」とは異なり、大根・キャベツ・白菜・ネギ・ナス・ほうれん草・小松菜など冷蔵庫にある野菜を5～6種適当に選んで刻んで煮干し出汁で煮て、豆腐・豚肉などタンパク質と、オプションで白滝などを加え、味噌を溶いた味噌スープです。豚汁という方が近いかもしれません。朝に採る品目が野菜を中心に多くなるので昼や夜に手抜きしても罪悪感は最小限です。また、幼児期からは早く起きたくるように朝食にゼリーやお菓子等を用意していました。朝一番に糖分を摂って目を覚ます目的もあり、今では毎朝菓子パンです。どうしても早起きが必要な時ほど、子どもたちが大好きなドーナツやロールケーキを準備します。したがって食い意地の張った子ほど早起きします。夕食のおかずは週末に作り置きして冷凍しておきました。



仕事と育児の両立は、もちろん簡単ではなく、いつもハトハトでしたが、ここは3wans の出番、犬たちの能天気で無邪気な仕草が疲れを癒してくれます。犬を通じて web で知り合った犬友さんとの交流も癒しのひとつです。それでも、仕事辞めたい、母親辞めたいと思うこともよくありました。いつも弱音を吐いていましたが、一番弱音を吐くくせに誰よりも最後まで頑張るタイプと評価されたこともありました(褒め言葉だと信じます)。

子育てのしにくい社会と言われる中でも、私の場合は幸運なことに、実家だけでなく、区の支援、保育園、小学校、学童保育、子どもの習い事の先生などの多くの理解と協力があり、また、弁理士クラブや同期の仲間、友人、職場、クライアントの皆様にも励まされ、恵まれた環境であると思います。双子2組！？と驚かれることも、「双子2組の母弁理士」と上司が面白がって顧客に紹介することも、4人育児頑張っ！という応援も、双子ちゃん可愛いとかけてもらう言葉も、どれもが日々の活力になっていて、家族、友人、知人から、街ですれ違う見知らぬ人まで、多くの人に助けられてここまで来たと思います。そして、子どもは親だけで育てるのでも、学校だけで学ぶのでもなくて、社会全体が育てていくのだということをしみじみ感じます。

育児をしながらよく思い出すのは、リチャード・ドーキンスの著書「selfish gene」です。同著の中で、ドーキンスは、生物は遺伝子の乗り物であると唱え、遺伝子に準えた文化の承継単位「ミーム」を提唱しました。双子たちが成長し、徐々に母親としての役割を終えつつある過程で、子育てという女にとって重荷で不利益な業務を遂行するのは遺伝子の仕業だ、と感じることは多々あります。弁理士クラブや弁理士会の活動により、次世代への文化の承継の責任を果たしたいという思いもあります。このメールマガジンをご覧になる先生にも、間接または直接に、遺伝子「gene」や文化「ミーム」の承継の一端を担っておられることを、時々思い起こしていただきたいと思います。

すべての関係者の皆様に感謝を込めて。

玉腰 紀子